

こぶしの花*

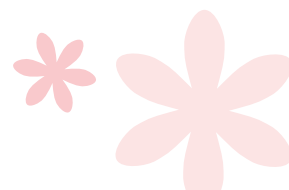


FSAサークル (FSA: Foreign Student Association) の活動をみんなに知ってもらおう
2022年度「翔麗祭」展示 (10/8・9) より

特集 * パンデミック後の教育活動 2

青森中央学院大学	6
青森中央短期大学	8
青森中央経理専門学校／青森中央文化専門学校	10
附属第一・第二・第三幼稚園／中央文化保育園／浦町保育園	12
学園共通	14

パンデミック後の教育活動



大学の諸活動が元に戻りつつある中、9月末から新型コロナウイルス感染者の全数把握が見直されました。しかし、恐らくこの感染症が終わるとは当面考え難く、今後は感染防止を徹底した上で、ある程度日常化した付き合い方が必要になるのは間違いありません。

これまで、学生、教職員の努力と協力により、イベントや課外活動を除いて、ほぼ正常な教育活動が維持できました。特に学生支援における関係者の尽力は大きなものでした。

また、この間、遠隔授業を短期間ながら実施したことも重要な経験であり、普段の教育活動にも応用すべき利点が多くあります。さらに、国際交流への影響は多大なものがあ、例えば、入国できない留学生への対応に、担当の教職員が心を砕いて来ました。そして今、本学の国際交流活動が元に戻りつつあるとともに、さらに強化されようとしていることに希望を見る思いです。

私たちは、この経験を銘記し、今後も起こるであろう新たな感染症パンデミックへの対応に活かすべきだと強く感じています。

青森中央学院大学長 佐藤 敬



海外留学プログラムが始まりました



昨年度、コロナ禍で海外留学を制限された学生のオンライン留学が実施されましたが、今年度は現地での海外留学プログラムが復活しています。本学では、現地留学する学生に経済支援を行う制度があり、8月、夏期休暇を利用して留学する学生に「海外留学奨励費授与式」を行いました。

また、これから海外留学を検討する学生のため、留学先の紹介や、実際に留学した学生と体験談や心構えなどを相談できる「海外留学相談会」を定期的に実施しています。

留学体験記(8/8~8/27釜山外国語大学校) 経営法学部2年 山下真由子

私は独学で韓国語を勉強していて今よりも上達させたいという思いから留学を決意し、海外留学奨励費を得て、韓国第二の都市・釜山にある釜山外国語大学校で3週間の語学研修プログラムに参加しました。

プログラムでは韓国語授業、文化体験、現地大学生との交流が行われました。授業は、事前にリモートでレベルテストを行い、それぞれのレベルに合ったクラスで韓国語を勉強します。私のクラスでは文法、文法を使った発表をメインに授業が行われました。韓国語で発表資料を作るのは難しかったですが、クラスメイトと協力して行い、応用力が身についたと思います。文化体験、学生交流では貴重な体験ができ韓国文化への理解を深めることができました。

また、放課後や休日は、釜山市内の観光を楽しみました。授業以外でも韓国語を使うことを心がけ、現地の人とたくさん交流を行いました。語学を学ぶ上で、授業で習って終わりではなく、日常生活で実践することで語学力を伸ばすことができると実感しました。会話をすることで、ガイドブックやインターネットでは知ることのできない「韓国」を知ることができました。今回の留学で得たことをモチベーションにして、韓国語能力試験上級の取得を目標に、これからも継続して勉強を頑張ります。



▲ 後列右から3人目が山下さん

ICT活用技術をみがく「データ分析実践講座」



8月から9月の夏休み期間中、経営法学部の楠山大暁准教授、山本俊准教授、畠山光史講師が担当し、3回に渡って「データ分析実践講座」を実施しました。

この講座は、本学が今年度より開始した「データ分析実践プログラム」の一部であり、データ分析の基本的な考え方や技術への理解を深め、多様なデータ処理ソフトを活用して、因果関係を推論したり、経営効率性を計測したりするなど、実践的な学修となっています。

次回以降のデータ分析実践講座では、これまでの学修内容を深めつつ、テキストマイニングなど、より進んだ内容にも取り組む予定です。



受講生感想

＊パネル分析の考え方に関心があったので、参加しました。講座では、疑問に思っていた部分を、多くの具体例を用いて説明して頂いたので、感じにくかった数式の意味を理解できました。(経営法学部2年 平澤さん)

＊私は水道料金が自治体によって異なることに疑問を持ち、昨年より、水道事業の効率性を研究してきました。今回の講座を通じて、効率性の理解が深まり、より工夫された計測方法にも挑戦したいと思いました。(経営法学部2年 稲葉さん)



地域の防災を考える連続公開講座

青森中央短期大学では、東日本大震災から10年を迎えた昨年度から、今一度、災害を自分事として考え備えようと、さまざまな公開講座や研修会を企画しています。今年度も『減災・防災を考える ～「いざ!」という時どうする～』と題して、「減災」「防災」を共通テーマに、食物栄養学科・幼児保育学科・専攻科福祉専攻の教員が専門性や特色を活かした講義を行う連続公開講座を開催しました。

講座参加者には、誰しも被災の当事者になり得ることを改めて認識し、支援者としてできることや日ごろからの備えの重要性を、「自分事」として捉える機会としていただけたようです。本学では、これからも地域の皆さまとともに、災害や減災・防災について、当事者のひとりとして考え行動してまいります。

第1回 7/23

親子でつくってみよう!
身近なもので
もしもの時のクッキング



ライフラインが停止した非常時、限られた条件下でも簡単に作れる「非常食クッキング」を親子で楽しみながら学びました。



第2回 8/27

高齢者施設に学ぶ
災害への備え



指定避難所、福祉避難所の基礎知識を得た後、特別養護老人ホーム三思園の取組みを事例に、利用者・職員の生命を守るためのハード・ソフト両面の備えについて学びました。



第3回 10/1

高校生と考える
『子どもにやさしい
避難所』づくり



避難所の設営・運営やそこでの生活で忘れられがちな「子ども」に焦点を当て、幼児から高校生まで年代別に注意すべきことについて、高校生自らがグループワークを通して学びました。



防災・減災を考える授業「地域探究アクト」

近年、気候変動に伴って青森県でも自然災害が頻発・激甚化してきていることから、経営法学部の中村智行准教授が担当する「地域探究アクト」では、フィールドワークを通じて地域の防災・減災の課題について学んでいます。8月10日には、昨年の下北豪雨で被災した家屋等を調査するとともに小赤川橋（むつ市）の復旧工事の様子を視察しました。また、10月19日には、大仏公園（弘前市）にある「洪水の石碑」を調査し、自治体に働きかけて国の「自然災害伝承碑」への登録を目指しています。

学生からの感想

経営法学部2年 高橋 智矢

むつ市のフィールドワークでは、去年崩落した小赤川橋を訪れました。崩落した小赤川橋には仮設の橋を建設しており、橋は現在進行形で復旧している最中でした。その周りには橋が崩落し川が氾濫したことによる浸水被害が広がっていました。民家には土砂が流れ込み、災害から一年が経った今でも浸水の痕跡や堆積した土砂がまだ残っており、災害の悲惨さを思い知らされました。今回の小赤川橋の調査を経て災害の危険性を想像することができ、今回の経験をもっと災害にあった際に活かせればと考えました。



▲ 小赤川橋でのフィールドワークの様子 ▲

弘前市の大仏公園にある石碑を調査して、災害の恐ろしさを後世に伝えることの重要性を知りました。この石碑は1935年に起こった平川の氾濫について漢文で記されたもので文字が削れており解読するのが大変でしたが、全文を解読した時に当時の災害の状況が克明に記されていることが分かりました。このような自然災害伝承碑を地元住民の憩いの場に建てることは日頃の防災意識を高めることにも繋がります。今回のフィールドワークで学んだことをこれからの防災にも役立てたいです。この石碑を発見するに至った経緯には私が個人的に行なっている地方史研究も大きく関わっており、1年間続けてきた地方史研究がこのような形で成果に繋がり、とてもうれしく思います。



▲ 大仏公園での「洪水の石碑調査」

「緊急消防援助隊 北海道・東北ブロック合同訓練」に参加



「緊急消防援助隊」とは、阪神・淡路大震災を教訓として全国に創設され、大規模災害や特殊災害が発生した時、被災地からの要請を受けて出動する応援部隊です。毎年全国6ブロックで合同訓練を行っています。

10月7日・8日の2日間、北海道・東北ブロック（8道県）の今年の合同訓練が青森県青森

市で行われ、8道県消防本部や応援隊とともに青森中央学院大学看護学部4年生40名が参加しました。メイン訓練会場は新中央埠頭で、地震による複合的な大規模災害を想定し、仮想病院を設置しての大掛かりな合同訓練となりました。



「緊急消防援助隊合同訓練に参加して」

看護学部4年 石田 菜緒

私は、緊急消防援助隊北海道・東北ブロック合同訓練に仮想病院の学生ナースとして参加しました。訓練前に災害対応について講義を受け臨みました。

訓練では津波により多数の傷病者が発生したことを想定し、病院へ搬送された傷病者に対する観察や処置、経過記録の記載を行いました。傷病者の経過や処置等を誰が見てもわかるように経時的に記録することで、次への対応に繋げることができると学びました。

また訓練中、被害や傷病者の状態等に関して得られた情報をホワイトボードへ記載しました。今回のような大きな災害において病院や消防署等多くの機関が連携し、被害や傷

病者の情報等を一か所にまとめることで迅速に情報共有ができ、全体の把握につながるのだと学びました。

災害はいつ発生するかわかりません。今回の貴重な体験からどのような事態でも活躍できる看護師になれるよう日々学習を深めていきたいです。



対面×オンラインの「翔麗祭」開催



コロナ禍を経て2年ぶりに開催できた今年の学園祭「翔麗祭」は、感染症対策として検温や入場制限を設けた会場での展示やステージの様子をYouTubeでライブ配信する対面とオンラインの「ダブル開催」を企画しました。「学生って本当に楽しい!〜CAN MAKE SHORE!〜」を開催テーマに、日頃の学修の成果を披露・展示してキャンパスの賑わいを創出し、歌やダンス、ファッションショー、演奏等でステージを大いに盛り上げました。



蓬田村ワークショップ活動

経営法学部2年 高橋 大智

私たちは経営法学部教授・竹内紀人ゼミの活動の一環として、青森市を訪れたワークショップ体験者を蓬田村に招き、交流プログラムの企画・運営を行いました。

現地では、トマトの収穫やおしゃれなアウトドア料理を体験者の方と一緒にいき、村の新鮮なトマトや海の幸を堪能していただきました。昼食時には蓬田村の久慈村長も合流され、非常に有意義な交流の時間を持つことができました。

この活動の第一の目的は体験者の方を青森のファンに

することでしたが、私たち学生の意識改革にもつながったと感じています。私たちは蓬田村のことをあまり知りませんでしたが、事前調査や「おもてなしプラン」の作成で、地域の魅力について理解を深めることができました。また、この交流を通じて、机上で勉強していた「関係人口」についても、これまで以上に興味を抱くことができました。

これからも地域を知る努力を重ねながら、さまざまな方と交流していく機会を増やしていきたいと思います。



▲ 久慈村長と体験者の方と記念撮影 (前列左端が高橋さん)



▲ みんなで作った料理を堪能

国際交流 留学生のAOMORI体験



9/2 若者世代に向けたあおもりの魚食普及事業「さかな料理講座」

減塩や食育の推進による食習慣の改善、運動習慣の定着、健康増進に取り組んでいる青森県の「若者世代に向けたあおもりの魚食普及事業」の一環として「さかな料理講座」が行われ、留学生も参加しました。現役漁師さんから殻付ホタテの捌き方、ホタテ料理を教わりました。



9/17 青森サポーター事業「青森県フォレストフェスタ2022 in 梵珠山と田んぼアート見学」

アジアからの観光客誘致推進協議会が主催する青森サポーター事業（青森の魅力を留学生の母国にPRする人材を育成する事業）の「青森県フォレストフェスタ2022 in 梵珠山と田んぼアートの見学」が行われました。フェスタでは県民の森・梵珠山を散策し、チェンソーアートの見学や木工体験に参加しました。その後、田舎館村の田んぼアートを見学し、青森の豊かな自然と文化を感じることができました。



9/24 留学生体験企画「三内丸山遺跡・青森県立美術館見学」

留学生に青森の歴史、芸術を理解してもらおうと、留学生体験企画「三内丸山遺跡・青森県立美術館見学」を実施しました。「三内丸山遺跡」では、ボランティアガイドの説明を受けながら見学した後、ミニ土偶作り体験をしました。「青森県立美術館」では、人気の「あおもり犬」や棟方志功をはじめとする郷土が誇る芸術家の作品を観覧しました。

学修の志を明確にする「飛翔式」

看護学部が基礎看護学に続き専門科目を学び始める2年次後期、看護学を学ぶことの意義を探究し、学修の志を明確にするため、学生が主体となって実施する「飛翔式」があります。式典の前には、目指す看護師のイメージ化や看護を学修する志を考えるための関連行事として、講演会とグループワークを行います。今年は青森市民病院の緩和ケア認定看護師の一戸真紀さんを講師にお招きして講演会を開催しました。

講演会から自分の看護師像を考える

看護学部2年 水木 綾音

実際の現場で働いている方の看護観が知りたいという学生の意見から、「私の看護観 スペシャリストやジェネラリストの視点から」と題し、8月下旬に、青森市民病院 緩和ケア認定看護師の一戸真紀先生にご講演をいただきました。目指す看護師像について具体的にイメージし、今後の学修の志について考えることを目的に講演会を計画し、開催しました。講演から、働いてからも学び続けることの大切さを学びました。学ば姿勢を常に持ち、目指す看護師像に近づけるよう今後の学修に励んでいきます。



飛翔式を終えて

看護学部2年 福士 翔隆

「飛翔式」は大学生活初めての学生主体の行事で不安もありましたが、多くの学生や大学関係の方々のご協力があり、10月15日に無事為し遂げることができました。

私は、中学生の時に初めての手術を受け、その時に担当になった看護師の患者と真摯に向き合う姿をみて、看護師になりたいと思いました。飛翔式までの経験の中で、看護には思いやり・広い視野を持つことが大切だと再確認できました。今後も看護についての学習や実習などに積極的に参加し、その経験を確実に自分の力にできるように頑張ります。



学生を代表して「誓いのことば」を述べる福士さん(左)と須藤さん ▲

研究室紹介

看護学部教授 三國 裕子 研究室

注射部位の静脈に関する解剖学的研究を一貫して行っています。何とかの一つ覚え、と言いますが、まさにその通りです。それでも解明できていないことが多く、研究は延々と続きそうです。

半面、研究成果公開として、科学研究費助成事業「ひらめき☆ときめきサイエンス」を6年連続で実施させていただいています。「人体解剖学を基にした安全な採血部位を解明しよう!」をテーマとした本企画では、受講生である高校生が本学に入学し、さらにこの企画の運営サポーター

として活躍しています。様々な学年からなるサポーターは、いつの間にか先輩・後輩という温かな協力関係を生み、本企画の伝統となっています。

私も学生に刺激を受け、「血管と健康」を中心とした健康教育にも取り組み始めました。解剖学などに興味のある方はお気軽に研究室へお寄りください。



高校生に研究を紹介する「ひらめき☆ときめきサイエンス」



青森市立横内小学校で行った健康教育の出前講座



地産地消弁当の開発をしています

2012年から青森県農林水産部総合販売戦略課、及び、株式会社イトーヨーカ堂と連携して、地産地消弁当の共同開発を行っている食物栄養学科では、今年は「青森中央短期大学 監修 中短のちゅっぴいおすすめ!彩りもりもり弁当」と題して、青森県産食材を盛り込んだカラフルなお弁当を開発しました。

開発に携わった食物栄養学科2年の亀田実咲さんは「枝豆

とパプリカとコーンのご飯は、減塩を意識し、味付けを洋風にすることで飽きが来ないように、また彩りよくすることで目からも楽しめる工夫をしています。三村知事への表敬訪問はとても緊張しましたが、課外活動を通して、先生方のご指導のもと、商品開発の楽しさを知ることが出来ました。」と話していました。



食育ワークショップ& 野外調理に参加しました



青森市の取り組み「ダンスで青森を元気に」&「食育で青森を健康に」の初コラボ企画「DANCE × DAY CAMP」がモヤヒルズで開催され、ダンサーのMacotoさん、HIROTOさん、大舌恭平さんと、食育料理研究家のなぎさなおこさんが青森市内の小学生約40人にレッスンを行いました。

アウトドアクッキングでは、食物栄養学科2年の成田月佳さんがアシスタントとして参加しました。成田さんは「小学生と一緒に、棒パンや、旬の青森野菜と八甲田短角牛を贅沢に使ったカレーを作りました。青森市長をはじめ、ご活躍されている大人の方とも触れ合うことができました。学生生活は残り少ないですが、これからも様々な活動やボランティアに参加して、実りあるものにしたいです。」と話していました。



管理栄養士免許取得のための勉強会 ～国家試験合格率57.1%～



「管理栄養士免許取得のための勉強会」は、食物栄養学科の教員が行っている卒業生のためのキャリアアップ支援事業です。

5年目をむかえた勉強会は、国家試験の合格率が年々アップしています。第36回国家試験の合格率は「全国が28.8%」に対し、「本勉強会の参加者は57.1%」という驚異的な合格率となりました。

これまでは来学いただいておりますが、時代を鑑み、オンライン形式で10月から12月の平日の夜に開催しております。開催回数は29回を予定しており、模擬試験の受験も可能です。随時、申し込みが可能ですので、大学HPをご覧ください。

ご自身のキャリアアップにご活用ください。皆さまのご参加をお待ちしております。

管理栄養士国家試験の合格率

国家試験	栄養士養成課程（既卒）		管理栄養士養成課程（新卒）
	全国	本勉強会	全国
第34回 20.03.01	17.8% 934/5248 人	25.0% 1/4 人	92.4% 8800/9527 人
第35回 21.02.28	24.3% 1243/5106 人	37.5% 3/8 人	91.3% 8807/9643 人
第36回 22.02.27	28.8% 1594/5541 人	57.1% 4/7 人	92.9% 8812/9490 人



『子どもが乗ることができる遊具』活躍中！

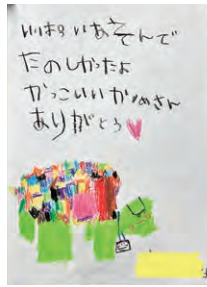
幼児保育学科講師 木戸 永二

幼児保育学科2年生が造形の授業で作った『子どもが乗ることができる遊具』が様々な保育施設で活躍しています。

9月のビオトープに登場した2体は、子ども達にお花や草でできたお弁当を食べさせてもらったり、2人、3人が交代で背中に乗ったりと、たくさん遊んでもらった後、附属第一幼稚園へもらわれていきました。学生にとって自分たちの作品が自然の中で子ども達に遊んでもらっている光景を見ることが、今までにない経験になったと思います。

また、みどり保育園にもらわれていった遊具も子ども達のアイドルとして活躍しているようです。園長先生と子ども達からお礼のお手紙をいただき、学生へのとても良い励みとなりました。

段ボール、新聞紙といった紙でできたこの遊具は釘や木材など一切使わずに子ども達にとって安全な強度を目指して作られました。この遊具たちが、いつか壊れる日まで、思う存分遊んでもらえることを願っています。



福祉セミナー『ケアニン上映会』 『加藤忠相氏講演会』開催

2022年9月18日、今年も「青森県福祉・介護人材確保対策事業」である福祉セミナーを開催しました。午前中は映画『ケアニン～ここに咲く花～』が上映され、会場は涙と感動、そして熱い想いに包まれました。“ケアニン”とは、自らの仕事に誇りと愛情、情熱を持って「ケア」に関わる全ての人のことを指します。映画は介護施設で働く青年が、認知障害で言葉もなく自分だけの世界に沈み込んでいた方から、「あ・り・が・と」の言葉を頂くという温かい交流が描かれていました。

午後は、映画『ケアニン』のモデル事業所で、NHK「おはよう日本」「あさイチ」「プロフェッショナル仕事の流儀」等で紹介されている、高齢者施設「あおいけあ」の加藤忠相氏による講演会でした。「理想の居場所・理想の介護」というテーマで実際の取り組みが紹介され、地域と共に歩む介護福祉の可能性を実感することが出来ました。



「中短」音れくサークル」の 施設訪問

幼児保育学科2年 中澤 桃音

「中短」音れくサークル」は、音楽療法的な効果を期待して楽しい音楽レクリエーションを提供することから、地域の方々の健康や交流の場となることを目的としています。外部活動を含め、全ての活動を木曜日2校時のサークルボランティア活動の時間に実施しており、楽器演奏が苦手な方でも楽しく活動しています。

今年度はコロナの状況でしばらく外部活動ができませんでしたが、5月に施設で活動を行うことができました。楽器を鳴らして楽しんだり、「うみ」や「ブルー・ライト・ヨコハマ」などの曲を歌って懐かしむ利用者の方もいて、リラックスして活動を行うことができました。活動を終えた後には涙ぐむ利用者の方も見られ、貴重な体験をさせていただきました。

私は、専攻科福祉専攻に進学し、介護福祉士の資格を取ることが目標としています。幼児保育学科、専攻科での学びと、本サークルの音楽療法を活かした支援を行っていきたいと思っています。

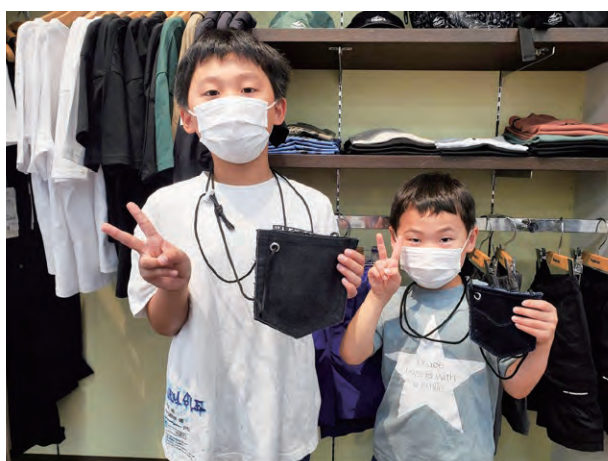


青森中央経理専門学校 青森中央文化専門学校



ライトオンワークショップ

2022年8月6日、7日の二日間、Right-on ドリームタウンALi 店にて、株式会社Right-onとコラボレートしたワークショップ「デニムミニバッグ作成」に青森中央文化専門学校トータルファッション科・ファッション販売専攻1年生7名が参加しました。ジーンズセレクトショップRight-on様の特色を活かし、デニムパンツのバックポケットを使用したミニバッグを青森中央文化専門学校が企画しました。ミシンを使わず、誰でも簡単に出来る内容でしたので、小さなお子様から親御さんまで、沢山の方にご来場いただきました。参加学生は授業で学んだ接客技術を活かし、参加者の皆さんと楽しい時間を過ごすことが出来ました。



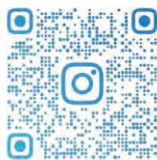
STYLE PROUD参加



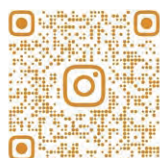
青森中央文化専門学校トータルファッション科2年の6名が参加中の「STYLE PROUD」から、第一弾商品が販売されました。STYLE PROUD公式サイト内に青森中央文化専門学校のインタビューページもございますので、こちらも併せてご覧ください。コラボページの二次元コードから、商品詳細・インタビューをご覧いただけます。今後も第2弾・第3弾と新アイテムを追加していきますので、是非ご覧ください。公式のインスタグラムも随時更新していきますので、是非チェックしてください！



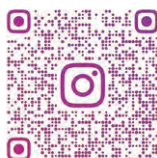
青森中央文化専門学校
×
STYLE PROUD



青森中央文化専門学校
Instagram



青森中央文化専門学校
STYLE PROUD
Instagram(チーム1)



青森中央文化専門学校
STYLE PROUD
Instagram(チーム2)

＼コラボアイテム/
青森中央文化専門学校
×
STYLE PROUD





パソコン講座

2022年8月26日、青森県総合社会教育センターにてパソコン講座を行いました。本講座は学生たちが講師役となり、参加者と1対1を基本にパソコンの操作等をレクチャーする形式で行い、今年で11年目となりました。参加者の中にはほぼ毎回来ていただいている方もおり、今回はワードでイラスト作成とエクセルでカレンダー作成を実施しました。学生たちは分かりやすく、

時には一緒に操作をしながら対応していました。また、密に気をつけたうえで参加者と会話を伴いながら対応していた場面もあり、学生たちにとってはいい経験になったかと思います。参加者からも「来年もまた実施していただきたい」などのコメントもありました。参加された皆様、ありがとうございました。



※写真撮影時のみマスクを外しています



五所川原商業高校探究学習サポート

五所川原商業高等学校から、地元を巡る外国人向け観光ツアー作成の依頼があり観光コンシェルジュコースで担当しました。「旅行プランの作り方」と題してプランニングのコツや、運賃・料金の計算方法、観光関係従事者の心構え等、実践的な講義を2022年9月6日に実施しました。

生徒たちが作成したプランは、効率的かつ外国人旅行者が楽しめるコースで、プロの旅行会社そのものでした。このツアーに参加する外国人は、きっと五所川原の街が好きになることでしょう。生徒たちは、今まで気付かなかった、地元の良さを再発見したかと思えます。今後も、学園のスケールメリットを活かし大学・専門学校と高等学校の連携を図って地域貢献を目指していきます。

旅行プランの作り方 (プランニング)

令和4年9月6日
青森中央経理専門学校
観光コンシェルジュコース教員 鈴木 伸吾



附属第一・第二・第三幼稚園／ 中央文化・浦町保育園

教育方針

健康で明るく心豊かな子ども

●友達と仲良く遊ぶ。

●よく見、よく聞き、よく考える。

●思ったことははっきり話す。

●自分のことは自分でやる。

附属第一幼稚園



まぜまぜ！ジュースづくり！
おひとついかが♡

附属第二幼稚園



みんなで育てたお野菜！
大収穫だったよ☆

附属第三幼稚園



こんなにおいものがとれました
今夜はカレーライスかな？



自分たちで蒔いた雲谷のコスモス！
大きくなってとってもいいにおい！



思ったよりも高くてびっくり！
でも気持ちよかったよ！



お米大使がやってきた～♪
おにぎりおいしかったよ



セミの羽化を発見！
近くで見ると綺麗だな～大きくなってね！



りんご組キッズニアで
おいしそうなピザを作ってもらったよ！



幼稚園祭
ヨーヨーすくいに夢中！

中央文化保育園



《保育参観》海の中の保育園、
色々なことをして遊びましたよ

浦町保育園



大きくなったね～じゃがいも・枝豆・落花生、他
早く食べたいね、みんなで観察しています。



秋祭り「空気砲」でたおすゲーム、
だれが一番早くたおすことができたかな！

子どもたちの成長に感動

附属第一幼稚園に勤めて5年が経ちます。昨年、一昨年と年長組の担任をしました。昨年は1年目で担任した当時2歳児の子どもたちと1年間過ごし、無事に卒園させることが出来ました。まだ、少ししか言葉もわからなく、保護者の手元から離れると泣いていた子が、立派に卒園証書をもらい小学校へ旅立って行く姿を見てとても感動しました。毎日の保育の中で不安や戸惑いもありましたが、頑張った良かったと思えた瞬間でした。

今年度は元気いっぱいの中組の担任となり、毎日子ども

認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園
須藤 李奈先生



たちと一緒に過ごしています。子どもたちが主体的に活動できるように、保育のしかけを考えたり、子どもたちの笑顔が見られるように準備をしたりすることが、今とても楽しくやりがいを感じています。日々の保育の中で子どもたちの「できた！」を大切に、成長していけるように見守っていききたいと思います。

今の保育に満足せずに、これからもいろいろな保育を学びながら自分自身も成長していきたいです。

毎日子どもたちに会える喜び

附属幼稚園に勤めて2年目になりました。今年度も未満児クラスの担任になり、「せんせー！」と呼ぶ子どもたちの声に癒される日々を送っています。

毎日、一人ひとり違う子どもたちの表情を見てみると、あっという間に時間が過ぎてしまいます。特に1番輝いて見えるのは、子どもたちが自ら「やりたい！」と感じたことをしたときの表情です。目をキラキラさせながら思い切り活動する姿に元気をもらっています。今年度、感染症防止のため自粛が続く、子どもたちに会えない日々が続きました。この期間はとて

認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園
新山 綾乃先生



も時間の流れが遅く「早く子どもたちに会いたい」という気持ちでいっぱい、自粛が明けると、お話が上手になっていたり、トイレで排泄できるようになっていたり、成長に驚かされました。このような、子どもたちの表情を間近で見られて、成長を感じられる教諭・保育士という職業はとても素敵だと思います。保育者として働ける喜びと、子どもたちに毎日会えることのありがたみを忘れず、これからも成長していきたいです。

保育教諭としてのやりがい

昨年度に引き続き、今年も年少組の担任として保育をさせていただいています。

子どもたちと過ごす園生活の中で感じることは、保育教諭の仕事は多岐にわたることです。子どもたちや保護者の方々にとっては幼稚園の先生であることはもちろんですが、保育中は、時に看護師さんになり、時に美容師さんになり、行事ではお店屋さん・役者さんになり…。何役にも変身しながら子どもたちと関わるこの仕事が、「心から楽しくやりがいのあるもの」だと、改めて感じます。

子どもたちの口から「大きくなったら幼稚園の先生になりたいな」などという夢が聞けることも、嬉しいことのひとつです。この子が大きくなった時どうなっているのだろう？と姿を想像

認定こども園青森中央短期大学附属第三幼稚園
澤田 道絵先生



しては、夢を叶えてくれたらいいなと応援したい気持ちでいっぱいになります。

大好きな子どもたちと触れ合える楽しさの反面、「保育って奥が深いな」「時間が足りない～」と苦悩することもあります。若手の頃は、スムーズにできないことばかりで何度も壁にぶつかってきました。元気いっぱい純粋な子どもたちの姿にいつも支えられながら、乗り越えてきたからこそ、今の自分の保育があるのだと思います。

これからも、保育経験や自分自身の育児の経験を活かしながら、新たな保育にチャレンジしていける幼稚園の先生でいたいと思っています。

読み聞かせたい一冊の絵本

えがない えほん

B・J・ノヴァク 作 大友剛 訳（早川書房）

この絵本はタイトルの通り、絵がありません。テレビで初めてこの絵本の存在を知り、絵本を読み聞かせている場面を見ました。「絵がないと飽きてしまわないのかな？」と心配しましたが、「ばふ」「ぶりぶりぶー」とヘンテコな言葉がたくさんでくるたびに、子どもたちは大笑い！また、親しみのあるカエルや鳥の歌の替え歌やおさるのモノマネをしながら、子どもたちに語り掛けたり、言葉遊びのようなやりとりがあり、子ども達は聞き逃さない様にとて集中して聞き、「あはは！」と笑い、最後まで楽しんでみることが出来ます。

口に出して読み、コミュニケーションを取りながら一緒に楽しめる、そんなステキな1冊です。



幼保連携型認定こども園中央文化保育園 山上 由美子先生



3年ぶりの「青森ねぶた祭」に参加しました

今年8月、青森市では3年ぶりの「青森ねぶた祭」が開催され、本学園からも祭り期間中の8月2日、3日に「青森中央短期大学附属幼稚園子どもねぶた」が出陣しました。園児のハネトはじめ、本学園の学生による運行・囃子方で、青森の夏をにぎやかに彩りました。



大学HP 短大HP



6年ぶりに横内地域でのねぶたが復活しました

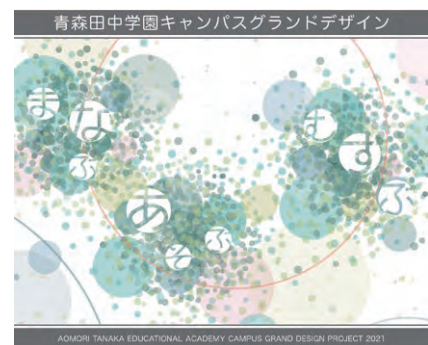
かつて多くの町内で運行されていたねぶたですが、少子高齢化やコロナ禍等により、近年減少してきています。そこで、青森市横内地区の10町会、青森中央学院大学・青森中央短期大学、他で構成している「横内地区まちづくり協議会」では、青森青年会議所の協力のもと、今年9月25日、地域ねぶた「横内ねぶた・秋の陣」として6年ぶりに運行することができました。



キャンパスグランドデザインを策定しました

青森田中学園では、10年後の魅力的なキャンパスを目指し、2021年に「学校法人青森田中学園キャンパスグランドデザイン」を策定しました。これは、全キャンパスの指針として位置づけ、10年後のキャンパスの理想像および10年間の整備方針を示した、いわばキャンパス整備の中期計画です。「まなぶ あそぶ むすぶ」のコンセプトのもと、居心地が良くて使いやすく、地域の方々と交流できる魅力的なキャンパスになるよう、現在計画的な整備を行っています。

10年後、「まなぶ」ための場所と、人生を豊かにする「あそぶ」場所が点在し、それらを「むすぶ」道で構成された、まちの新たな公共空間として開かれたキャンパスを目指します。



「未来のキャンパスグランドデザインプロジェクト」開催



ベンチを作りました。10月8日、9日の「翔麗祭」では、「未来のキャンパスグランドデザインプロジェクト～正門ベンチに名前を刻もう～」と題して、ベンチ用木材に大学マスコットキャラクターや学園シンボルマークの焼き印を押すイベ

キャンパスグランドデザインプロジェクトの一環として、本学園の象徴として長く親しまれてきた正門のヒマラヤスギを伐採し、その木材で正門の

ントが行われ、訪れた地域住民の方や学生などが思い思いに押印しました。

まもなく新しい正門が完成します。設置されたベンチのどの部分に自分の押印した木材が使われているか、ぜひ確かめにいらしてください。



▲ 着工前の正門とヒマラヤスギ

青森田中学園報「こぶしの花」第108号

発行日:2022. 11. 30

発行:学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

T E L :017-728-0131

F A X :017-738-8333

<https://www.aomoricgu.ac.jp>

<https://www.chutan.ac.jp>

「こぶしの花」編集委員

編集長 加藤 澄

福士 文子 柿崎はるな

外崎 秀香 杉田由佳里

大水 咲良 赤坂 裕子

中田 尋美 岩葉 悦子

町田美智子 高橋 晴美



青森中央学院大学

青森中央学院大学大学院

青森中央短期大学

青森中央経理専門学校

青森中央文化専門学校

認定こども園 青森中央短期大学附属第一幼稚園

認定こども園 青森中央短期大学附属第二幼稚園

認定こども園 青森中央短期大学附属第三幼稚園

幼保連携型認定こども園 中央文化保育園

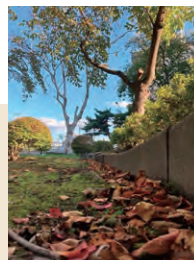
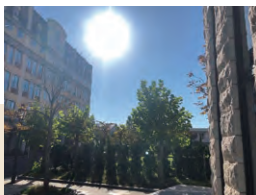
幼保連携型認定こども園 浦町保育園

「秋のひととき」

青森中央経理専門学校・写真サークルの皆さんの作品

撮影:2022年9月~10月

左から 佐藤紋子(顧問) 蝦名穂乃花(2年) 一戸美穂(1年) 兼平真衣(1年)



学 園 報「こぶしの花」に投稿しませんか

「こぶしの花」編集委員会では、青森田中学園報「こぶしの花」に掲載する写真や情報を募集しています。学園に関する魅力的な作品やできごと等、在学生の皆さんからの投稿をお待ちしています。

■応募期間:通年

■応募方法:申込フォームまたはメール
メールの場合は

①件名「こぶしの花写真・情報投稿」

②本文「所属・学年・氏名・電話番号・写真タイトル」を記入し
写真データを添付してください。

なお、応募作品は、青森田中学園在学生が撮影した未発表のものに限ります。
掲載が決まりましたら、こちらから連絡いたします。

■申込フォーム:<https://forms.office.com/r/SzQzdfPpKA>

■メールアドレス:acgukoho@aomoricgu.ac.jp

こちらの
申込フォームを
ご利用下さい

